

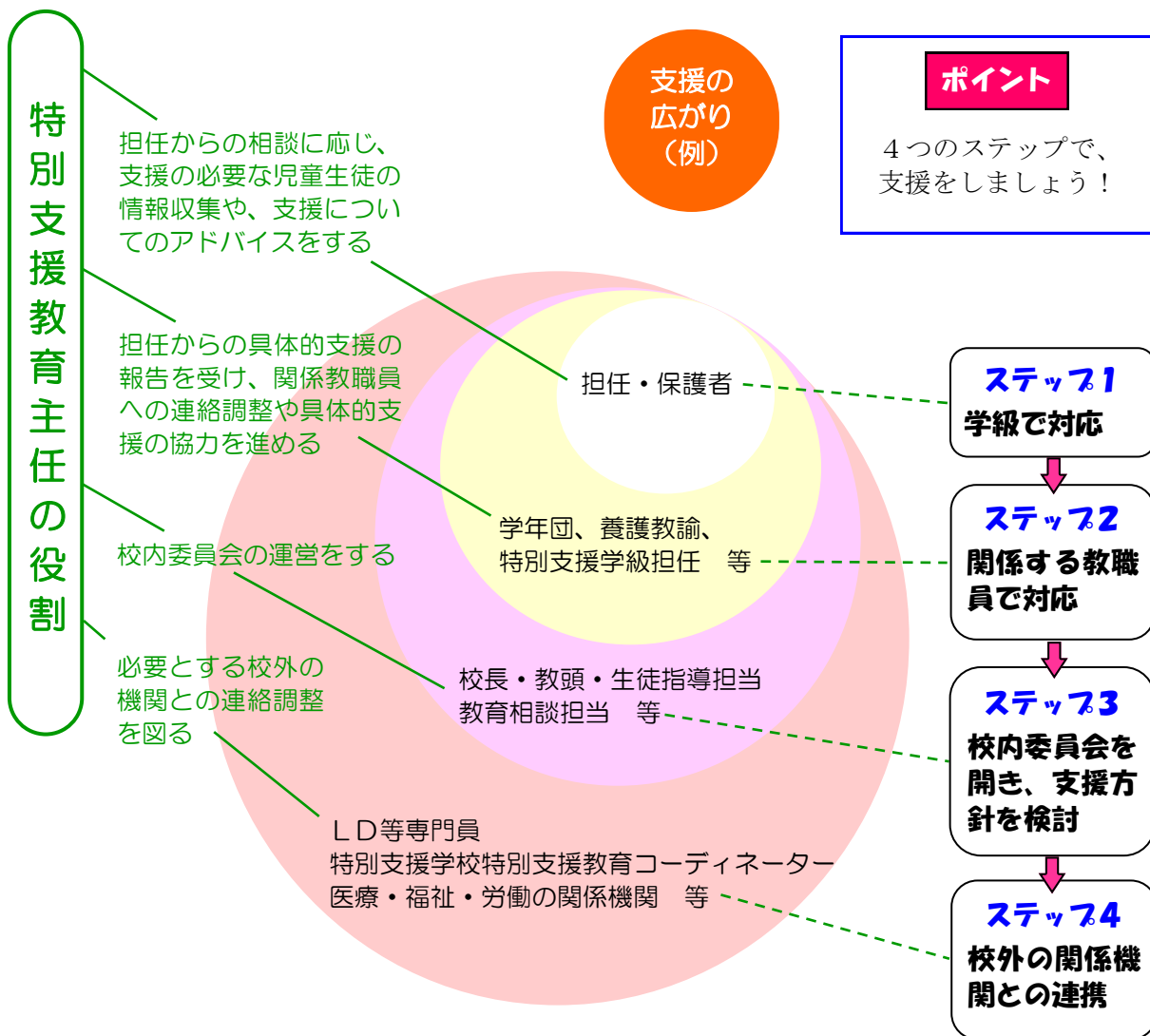
# 1 特別支援教育を進めるために

特別支援教育を進めるためには、学校内の支援体制を整え、学校全体で取り組むことが大切です。児童生徒のつまずきの要因はいろいろであり、担任一人で対応するには難しい場合があるからです。

特別支援教育主任は、学校内の支援体制を整えるために中心的な役割を担います。児童生徒の支援の広がりには、下記のように4つのステップが考えられます。支援を必要としている児童生徒一人一人について、どのステップで対応していけばよいのかを検討してください。この編では、それぞれのステップで参考となる内容・ポイントを掲載していますので参考にしてください。

## 特別支援教育主任とは

学校内の支援体制を整えるとともに、外部の教育・医療・福祉・労働の関係機関等との連絡調整を行う中心的存在です。




「みんなで支援改訂版」(鳥取県教育委員会)参照  
「特別支援教育課HP」よりダウンロードできます。

## まず校内で連携して支援しましょう

### ステップ1 学級で対応

- 支援の基本は担任です。
- 実態把握や保護者との情報交換をもとに、学級でできる支援を工夫する。


 本編「2 実態把握のためのチェックリストの活用」参照

- 学級環境づくりや仲間づくりの工夫、授業の進め方の工夫等をすることにより、支援を必要とする児童生徒にとってはもちろん、どの子にとっても、安心して過ごしやすい環境になる。


 本編「3 どの子も安心して学ぶことのできる学級づくり」参照

### ステップ2 関係する教職員で対応

- 他の教職員と連携し、チームを作って支援にあたる。
- ケース会議や支援会議を開き、関係者が情報を共有し合いよりよい支援を検討する。

 本編「4 ケース会議・支援会議のねらいと進め方」参照

- 事例検討会を行うことで、実態をより広く捉えて、支援を検討する。

 本編「5 インシデントプロセス法を取り入れた事例検討会」参照


- 支援を必要とする児童生徒に視点を当てた授業研究会を行うと、有効な支援について詳しく検討できる。

### ステップ3 校内委員会を開き、支援方針を検討

校内委員会とは、特別な教育的支援を必要とする児童生徒の実態把握を行い、抱える課題について全職員の共通理解のもとに、学校全体でより適切な指導・支援をするための校内組織

#### 校内委員会の進め方

- 校内の支援状況の情報を集約し、個々の支援の方向性を確かめる。
- 事例について検証・検討をして具体的な支援を考える。
- 校外の関係機関との連携が必要かどうかも検討する。
- 個別の教育支援計画や個別の指導計画が作成されている場合は有効に活用する。作成していない場合は、作成が必要かどうかを検討する。※個人情報の取扱いには十分に留意する。

 本編「6 個別の教育支援計画の作成と活用」参照  
本編「7 個別の指導計画の作成と活用」参照



## 校外の関係機関との連携も進めましょう

### ステップ4 校外の関係機関との連携

- 校内の支援だけでは解決しない場合は、校外の関係機関と連携する。
- 支援会議を開き、教育・医療・福祉・労働の専門家の意見を聞きながら、学校でできる支援を検討する。

 本編「4 ケース会議・支援会議のねらいと進め方」参照